

## 政府はキャッシュレス決済を促進

政府は、訪日外国人によるインバウンド消費の増加を狙うため、キャッシュレス決済を推進しています。まず2020年のオリンピック・パラリンピック開催までに、主要施設や観光地でクレジットカードが使えるように、そして2025年までにキャッシュレス決済を現状のおよそ2倍である40%までアップさせると意気込んでいます。

しかし、予定されている軽減税率への対策もままならぬ中で、中小小売業の反応は芳しいものではありません。PayPayがスタートしたことで政府の思惑どおりキャッシュレス決済が増加するかどうか、今後の導入状況が気になるところです。

店舗にPayPayを導入するには、「PayPay for Business」からのオンライン申し込みが必要です。

## 初期費用は当面0円！低コストで導入できるのがメリット

PayPayは、

- ・初期導入費
- ・決済手数料
- ・入金手数料

の3つの費用を0円で始められる決済サービスです。

決済手数料は3年間無料、それ以降から有償となる可能性が発表されています。

申し込みから審査を経て、クリアするとPayPayを導入することができます。

## インバウンド対策！PayPayのQRコードでAlipayも決済可能

PayPayは、中国のアリババ・グループによるQRコード決済「Alipay (支付宝)」にも対応しています。

こちらも2019年9月30日までの限定的措置ですが、決済手数料は0%に設定されています。Alipayは、訪日観光客によるインバウンド消費に大きな役割を果たしているため、両方を決済可能なことをメリットとする事業者も多いのではないのでしょうか。

「PayPay」は、2018年10月にサービスがスタートした、ソフトバンクとYahoo!JAPANによるモバイルペイメント電子決済です。

アプリを入れてスマホを端末にタッチし、料金を支払うことができるキャッシュレス決済で、モンテローザ、ワタミなどの居酒屋チェーン、ジーンズメイト、新星堂薬局といった店舗での導入からスタートし、12月までに家電量販各社、コンビニ各社、earth music & ecologyなどのアパレルブランド、旅行業界ではH.I.S.、タクシー会社といった様々な業界で利用が可能になっています。

PayPayの概要や導入方法、加盟店、キャッシュバックキャンペーンやそれに伴うクレジット不正利用問題からみえる普及への課題などについて徹底解説します。

## ソフトバンクとYahoo!JAPANのタグによるPayPayスタート！

「PayPay (ペイペイ)」が10月5日、サービス開始となりました。

PayPayは、ソフトバンク株式会社とヤフー株式会社によって2018年6月に設立されたPayPay株式会社が提供するモバイルペイメント電子決済です。

新規登録のユーザーに500円分の残高を付与、初期費用や決済手数料0円で導入可能など、消費者、加盟店両方にメリットを提示して利用を促しています。

モバイルペイメント電子決済は、

- ・スマホ決済
- ・モバイルペイメント

ともいい、QRコード決済を意味することもあります。

スマートフォンなどの端末にインストールしたアプリを使い、専用リーダー（読み取り機）で情報を読み取って支払いをおこないます。

あらかじめ紐づけた口座にチャージをしておく「先払い式」が一般的ですが、クレジットカードを紐づけて後払いにしている決済もあります。